

【北海道通信記事】旭川聾 水害避難訓練 自らの命守る力培う

北海道通信

旭川聾 水害避難訓練

自らの命守る力培う

垂直避難で適切な集団行動



【旭川発】旭川聾学校（門真義弘校長）は3日、同校で水害に関する避難訓練を実施した。写真：1日に展開した「1日防災学校」に続く「防災週間」の取組の一環。児童生徒たちは、地域の地理的特性や浸水リスクを学ぶ事前学習と、校舎2階へ素早く移動する「垂直避難」の実践を通して、洪水時に指示に従って適切な集団行動を取り、自らの命を守る力を養った。

同訓練は、近年各地で風水害が多発する中、洪水等の緊急事態発生時に速やかな垂直避難行動を身に付けることを目的に生活・指導部が企画した。同校では防災週間において、地震・火災を想定した1日防災学校や各種体験活動、事前・事後の学習を一体的に進めており、今回の訓練もその重点プログラムとして位置付けられている。

当日は、体育館に集合した児童生徒に、パワーポイントを用いた水害に関する学習から開始。旭川市内を流れる石狩川や美瑛川、忠別川などの河川環境に触れた上で、学校周辺

避難訓練と避難行動

昨今、とても多くの災害が起きるようになりました。そして想定を超える急激な天候の変化が、線状降水帯を発生させ、大雨を降らせたり、川の氾濫による洪水被害や土砂災害を起こしたりしています。また、地震が津波を引き起こすなど、災害の種類や程度が多様になりました。

最近では、ネパールと中国の国境付近で起きた土石流による災害映像は衝撃的でした。また、日本の各地においても「命を守る行動」が求められる警戒レベル5の特別警報が出される場合が多くなってきています。

また、東京では、人災になるかもしれませんが、学校における火災が発生し、想定していなかった場所から火が出て、大きな火災となりました。

避難訓練は、一つの想定に過ぎません。地震による津波が想定される際に、東日本大震災のあった東北地方では、「津波でんでんこ」といって自らの意思で、一人一人が、急いで「陸続きの高台」に逃げるようにとの言い伝えがあり、日常から避難行動や避難訓練に生かされています。本校では、垂直避難の訓練をしてはいますが、状況の違いによる判断を的確に行い、その場その場で子どもたちの命を守る適切な避難行動が取れるように頭の体操をしておきたいと思っています。

のハザードマップを確認し、い・はしらない・しゃべらない・もどらない」の約束を再確認した。市内の水害発生と階への避難を促す訓練放送が入ると、児童生徒は教員の指示に従って落ち着いて行直避難と呼びかけるとともに、児童生徒と手話や言葉で復唱して確認。「大雨で車が船のようになってしまうことがある」と自身も被災経験を紹介したほか、大雨の影響による函館方面のJR運休や前日の青森県での豪雨被害に言及し「旭川でも大雨が降るかもしれない。普段からしっかり気を付けよう」と呼びかけ、日頃からの危機意識と主体的な行動の大切さを伝えた。